

2026年7月23日

産業別四半期見通し調査結果 (2026年7～9月期見通し)

■長野県産業天気図

◇2026年4～6月期の現況

- 全12業種中、「薄日(順調)」が1業種、「曇り(普通)」が9業種、「小雨(低調)」が2業種となった。

◇2026年7～9月期の見通し

- 見通しは、「薄日(順調)」が3業種、「曇り(普通)」が7業種、「小雨(低調)」が2業種となった。方向感では、「やや上昇」が2業種、「横ばい」が9業種、「やや下降」が1業種となっている。

天気図記号	2026年 1～3月期現況	2026年 4～6月期現況	2026年 7～9月期見通し
 晴れ(好調)	0 業種	0 業種	0 業種
 薄日(順調)	1 業種	1 業種	3 業種
 曇り(普通)	7 業種	9 業種	7 業種
 小雨(低調)	4 業種	2 業種	2 業種
 雨(不調)	0 業種	0 業種	0 業種

■7～9月期見通しのポイント

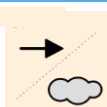
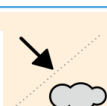
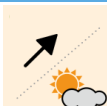
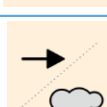
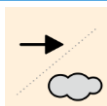
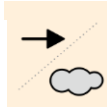
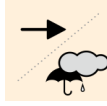
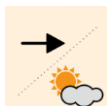
- 製造業では、生産用機械が「曇り(普通)」から「薄日(順調)」に、非製造業では、機械器具卸が「曇り(普通)」から「薄日(順調)」になる見通し。

照 会 先
一般財団法人 長野経済研究所
調査部(担当: 桑井、須田)
TEL: 026-224-0501



<産業別天気図一覧(12業種)>

- 調査内容: 業界の「現況」、「見通し」は、県内の企業経営者が業界の景気をどうみているかについてアンケート調査とヒアリング調査をした結果を基に、当研究所が判断した。
- 調査期間: 2026年6月中旬～7月上旬
- 調査回答企業: 県内主要企業12業種の112社

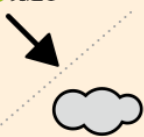
業種	前期 (26年1～3月期)	今期 (26年4～6月期)	来期 (26年7～9月期)
生産用機械			
電子部品・デバイス			
自動車部品			
飲料製造			
食料品製造			
機械器具卸			
大型小売			
自動車販売			
公共工事			
民間工事			
貨物			
観光			

生産用機械	半導体関連がけん引し受注は順調
● 現況 	生産用機械の受注は、IT関連では、旺盛な半導体需要が続いている人工知能(AI)サーバー向けがけん引し、堅調だった。自動車関連では、設備投資抑制の動きがやや改善し、引き合いが増加した。今後も、半導体を中心としたIT関連は高水準が続くほか、自動車関連も持ち直すと考えられ、受注は順調な見通し。ただ、リニアガイドなどの生産用機械の基幹部品の納期が長期化しており、生産面への影響が懸念される。
● 見通し 	• 工作機械の受注は、国内では半導体関連が堅調なほか、自動車関連も持ち直す見込み。海外では、米国や中国を中心に半導体関連がけん引し、受注は順調とみられる。 • 半導体製造装置の受注は、AIサーバー向けを中心に高水準が続く見通し。

電子部品・デバイス	AIサーバー向けを中心に堅調な見通し
● 現況 	車載用は、バッテリー式電気自動車(BEV)需要の停滞を背景に受注は低調だった。一方、産業用は設備投資の持ち直しなどにより受注は下げ止まった。また、IT関連は人工知能(AI)サーバー向けの需要が大幅に増加している。今後は、車載用は引き続きBEV需要の低迷などから受注は弱い動きが続くとみられるものの、AIサーバー向けの需要拡大などを受けて全体として堅調な受注を見込む。
● 見通し 	• IT関連は、AIサーバー向けの部品需要の増加により全体として受注は堅調な見通し。 • 産業用は、設備投資の持ち直しを受けて受注は底堅く推移するとみられる。 • 車載用は、BEV需要の停滞や中国メーカーとの競合等から受注は弱い動きが続く見込み。

自動車部品	北米、国内向けを中心に需要は底堅い
● 現況 	北米向けはハイブリッド車(HV)関連を中心に堅調なほか、国内向けも新型車向けの部品需要の増加などにより、受注は底堅かった。一方、アジア向けは日系完成車メーカーのシェア低下が続く中で受注は低調だった。今後の受注見通しは、アジア向けは低調に推移する一方、国内および北米向けは堅調な見込みであることから、総じて底堅く推移するとみられる。
● 見通し 	• 国内向けは新型車向けの部品需要が増加見込みのほか、北米向けも米国の通商政策の影響が残るものの、HVなど日系完成車メーカーの販売が堅調で、受注は底堅い見通し。 • 中国向け、東南アジア向けは、中国メーカーとの競合激化などから日系完成車メーカーの販売シェアが低下しており、全体として受注は低調な見込み。

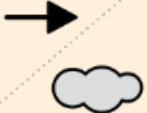
飲料製造	製品価格の上昇が続き、需要は低調
● 現況 	飲料の需要は、製品価格の上昇が続いたことで低調だった。今後も値上げにより製品価格が高値圏で推移するとみられることから、需要は低調な見通し。コスト面でも、包装資材価格の上昇が予想され、利益を押し下げる見通し。
● 見通し 	• 果汁・野菜ジュースなどの清涼飲料は、原料となる濃縮果汁の不足や容器などのコスト上昇を背景とした製品価格の値上げが続き、需要は低調な見通し。 • 清酒・ワインなどのアルコール飲料は、包装資材や物流費といった製造コストの上昇が続き、利益を下押しする見通し。そのうち清酒は、製品価格が高値圏で推移し、需要の弱さが続く見通し。また、ワインも節約志向などを背景に需要は横ばいで推移する見込み。

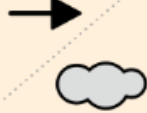
食料品製造	堅調な需要が継続するものの、製造コスト上昇が利益を下押し
● 現況 	家庭用は、値頃感がある製品や健康志向に配慮した製品を中心に底堅い需要が続いた。また、業務用も外食向けを中心に需要は堅調に推移した。今後も、内食を中心に堅調な需要が見込まれる。ただ、輸入原材料価格の上昇や、中東情勢の緊迫化に伴う影響で、物流費、燃料費などのコスト上昇が利益を下押しする見込み。
● 見通し 	・味噌などの調味料は、健康面に配慮した製品を中心に需要は底堅い見込み。 ・ソースなどは、値頃感のあるPB製品や外食向けの需要が底堅く推移する見込み。 ・乾燥食品や加工肉などは、輸入原材料価格など製造コストの上昇に伴い、利益は減少する見込み。

機械器具卸	建設・電設資材需要は順調なほか、半導体関連を中心に機械需要が上向く
● 現況 	機械需要は、自動車関連で設備投資の抑制が続いた一方、半導体関連では増加し、総じて堅調だった。また、建設・電設資材の需要は、民間工事を中心に底堅く推移した。今後も、建設・電設資材の需要は順調なほか、半導体関連を中心に機械需要は上向く見通し。
● 見通し 	・工作機械などの機械需要や制御機器などのFA機器の需要は、半導体関連向けがけん引し、上向く見込み。切削用工具類などの消耗品受注は、中東情勢の緊迫化に伴う供給懸念を背景に、ユーザー企業が在庫を積み増した反動により、低水準で推移するとみられる。 ・建設・電設資材の取扱量は、民間の建築工事やLED照明器具への更新需要などを中心に、順調な見込み。

大型小売	食料品を中心に販売価格の引き上げが続き、売り上げは堅調
● 現況 	加工食品や飲料などを中心に購入単価が上昇し、売り上げは堅調だった。今後は、消費者の節約志向は続くものの、食料品を中心に販売価格の引き上げが続くことから、売り上げは堅調な見通し。こうした中、人件費や光熱費等のコスト上昇が利益を下押しする懸念がある。
● 見通し 	・百貨店は、消費者の節約志向が続くことから、季節衣料品や化粧品は弱含む見込み。一方で、集客が見込める物産展に加え美術品などの販売により、売り上げは前年並みで推移する見通し。 ・スーパーは、消費者の買い上げ点数は減少するものの、販売価格の引き上げによって、食料品を中心に売り上げの増加が続く見込み。

自動車販売	新型車を中心に買い替え需要が見込まれ、販売は底堅い
● 現況 	新車販売は、新型車の投入や燃費性能等に応じて課税する「環境性能割」の廃止による負担軽減も追い風となり、販売台数は前年を上回った。中古車販売も年式の新しい車両を中心に底堅く推移した。一方、輸入車販売は、車両価格の上昇などから買い替えに慎重さがみられ弱含んだ。今後も新型車を中心に買い替え需要が見込まれ、総じて販売は底堅い見通し。
● 見通し 	・新車販売は、小型車のハイブリッドモデルを中心に引き合いが強く、底堅い見込み。 ・中古車販売は、新車販売の回復に伴い下取車が増加する中で、値頃感のある車両を求める需要も根強く、堅調な見通し。 ・輸入車販売は、新型モデルの投入が需要を喚起し、持ち直す見込み。

公共工事	防災・減災を目的とする土木工事を中心に安定した工事量を維持する
● 現況 	リニア中央新幹線に関連した大型工事や防災・減災を目的とする土木工事などにより堅調な工事量となった。今後も三遠南信自動車道関連事業や公共施設の改修工事などの発注が見込まれ、安定した工事量を維持する見通し。 ● 国では、防災・減災を目的とする治水施設やトンネルの整備工事のほか、三遠南信自動車道に関連する大型工事なども見込まれ、安定した工事量となる見通し。 ● 県では、道路改良工事や治水・治山工事のほか、公共施設の改修工事などにより、堅調な工事量となる見込み。 ● 市町村では、学校等の公共施設の改修工事などが見込まれ、安定した工事量となる見通し。
● 見通し 	

民間工事	住宅関係は弱含むものの、企業の建設投資を中心に工事量は堅調
● 現況 	民間企業の建設投資は、リゾート開発や店舗・工場の新增設を中心に堅調な工事量となった。一方、新築住宅は中東情勢を背景とした資材の高騰や住宅ローン金利の上昇などが需要を下押しした。今後も新築住宅の着工戸数は弱含むとみられるが、企業の建設投資を中心に総じて安定した工事量となる見通し。 ● 民間企業の建設投資は、白馬・軽井沢でのリゾート開発や店舗・工場の新增設といった設備投資を中心に堅調な工事量を見込む。 ● 住宅関係はリフォーム需要が堅調なものの、建築コストの上昇や住宅ローン金利の上昇が新築住宅の受注に影響を与え、着工戸数は弱含む見通し。
● 見通し 	

貨物	工業製品、食品・雑貨類とも貨物量は低調に推移する
● 現況 	工業製品は、中国向けなどの輸出関連製品や中東情勢を背景とした石油由来製品を中心に荷動きは低調だった。食品・雑貨類も物価高の影響のほか、食品用トレーなどの品薄により一部製品の荷動きに弱さがみられた。さらに、人件費や車両費・車両整備費といったコスト上昇に対する価格転嫁の動きは鈍く、利益の下押し要因となった。今後、石油由来製品の荷動きは持ち直しに向かうとみられるが、貨物量は総じて低調に推移する見通し。 ● 工業製品は、中国向けなどの輸出関連製品を中心に出荷は伸び悩み、貨物量は低調な状況が続く見込み。 ● 食品や雑貨類は、物価高の影響などから引き続き弱い荷動きとなる見通し。
● 見通し 	

観光	夏季行楽シーズンを迎え、順調な利用を見込む
● 現況 	5月の大型連休を中心に、国内旅行者の観光需要は堅調で、インバウンドによる宿泊利用も順調だった。今後は、物価上昇による需要の下押し懸念はあるものの、夏季行楽シーズンを迎え、旅客・宿泊とも順調な利用を見込む。 ● 旅客は、山岳や避暑地への観光客が増加し、順調な利用を見込む。バスは、貸切や高速バスの利用が順調な見通し。タクシーは、就職希望者の増加により運転手不足が幾分緩和されるほか、配車アプリ普及で稼働率向上が見込まれ、増加する需要を取り込める見通し。 ● 宿泊施設は、お盆休みなどの連休を中心に堅調な利用が見込まれる。また、各種コスト上昇に対する価格転嫁等が進み、利益が改善する見通し。
● 見通し 	